

プレパレクション: 大人が、医療処置を受ける子どもが頑張れるように関わること

看護学第二講座 蝦名美智子

子どもは、伝統的に「説明してもわからない」ということで、説明なしで不意打ち的に医療処置を実施され、びっくりして泣き叫ぶと大勢の医療職によって押さえ込まれてきました。これは倫理的に問題があります。我々の調査では、子どもの発達に合わせた理解を考慮しながら医療処置の話をする、子どもは頑張りますし、自己肯定感を高め、病気であっても健康的な自分像を描きます。この関わり方をプレパレクションといいます。

プレパレクション preparation は英語のprepare 準備する、心構えをつくる、覚悟をさせる、の名詞です。小児医療では大人が子どもに、医療処置に対する心構えをつくるように関わる、という意味で用いられています。

医療処置の説明では、アメリカ小児科学会によると、15歳以上の子どもはインフォームドコンセントを受けることとなりますが、7～14歳はインフォームドアセント、7歳以下はプレパレクションとなっています。

**American Academy of Pediatrics Committee on Bioethics : Informed Consent ,Parental Permission ,and Assent in pediatric practice ,Pediatrics 95(2),1995**

下記は平成14年に行った全国調査での3～5歳児の状況です。

	医師	看護師
採血するときに必ず説明する	35.3%	61.1%
子どもがやる気になるまで待つ	2.0%	5.8%
押さえてでも早く終わらせる	91.9%	94.3%

プレパレクションが普及してきた今、この数字がどのくらい改善しているか、本年度に調査します。

連絡先 蝦名美智子 内線2865 ebina@sapmed.ac.jp